

私の本棚

アクサ生命保険社長

安瀨 聖司氏

▶「AIに意識は生まれるか」（金井良太著、佐藤喬編、イースト・プレス）

本書は、幼いころから「意識」について興味を持っていた少年が、科学者になり、研究を重ねてきた道すじを、読者も共にたどり、「意識」の神秘と、著者が見つけた、それを神秘でないものにする方法について学べる、最新の科学書だ。



「意識」という大きなテーマに対し、哲学、言語学、神経科学、コンピュータサイエンスなど複数の切り口で迫り、生成AIへの知見も含む、豊かな内容で、少々手ごわい部分もある。

私の見るところ、本書で提示されている中で最も重要な概念は「クオリア」。著者によれば、リンゴを見たときに感じる独特の赤さや、紙で手を切ったときのなんとも言えない嫌な痛みのような、言葉にしがたい、主観的な「感じ」を指している。

このクオリアの正体を突き止めるべく探求が続き、決定版ともいふべき「統合情報理論」とも出会うのだが、その過程で、著者は倫理について研究したり、また、脳の研究から派生して、自ら起業したりと活動の幅を広げるところが、実に新鮮だ。

「人類の不幸の総量を減らす」という、幸福学と重なる「クオリア主義」の提唱も含め、著者のマルチな視点が楽しめる。